

長崎県の医療における総合的な人材育成を目指して

長崎県地域医療再生臨時特例基金 医療教育開発センター構築事業

(平成26年 中間報告)



長崎県地域医療再生臨時特例基金 医療教育開発センター構築事業 など進行中の12事業

医師、看護師、薬剤師、救急救命士などの医療人獲得に苦慮している本県では、複数の施設が協力して医療人獲得競争に臨む必要がある。そこで、本事業では長崎大学病院、佐世保市立総合病院、長崎医療センターの3つの機関病院を中心に、医療人教育のレベルアップとキャリア形成システムの改善を図る。長崎県の現状の打破へとつながる「医療人教育の長崎」「研修するなら長崎」の実現を目指す。具体的には平成23年度より次の12事業を柱に進めている。



【3年間で進めている主な事業】

第1次再生基金(平成23年度)

12. ヘリポート建設



長崎大学病院にヘリポートと給油施設などを整備する。現在建設中の新中央診療棟の屋上に設置するもので、H28年3月完成予定。(詳細はP.9)

第2次再生基金(平成24年度・平成25年度) 医療教育開発センター構築事業

9. 長崎県の医療人が拠点病院で研修時に宿泊できる施設建設



第3次再生基金(平成26年度・平成27年度) 医療教育開発センター構築事業

10. 高度専門医育成

遠隔操作が可能な内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を導入。患者への低侵襲な手術が可能になり、離島や地域病院と連携して、高度な診療技術者の養成に役立てることができる。(詳細はP.9)



11. 救急医療教育室

救急医療教育室では、初期・2次の患者を受け入れている市中病院の救急外来に、センター専任教員と一緒に勤務。マンツーマン指導の下、研修医はあらゆる救急患者のファーストタッチを経験できることを目指す。(詳細はP.9)



1 地域で育てる専門医の養成

第2次 第3次

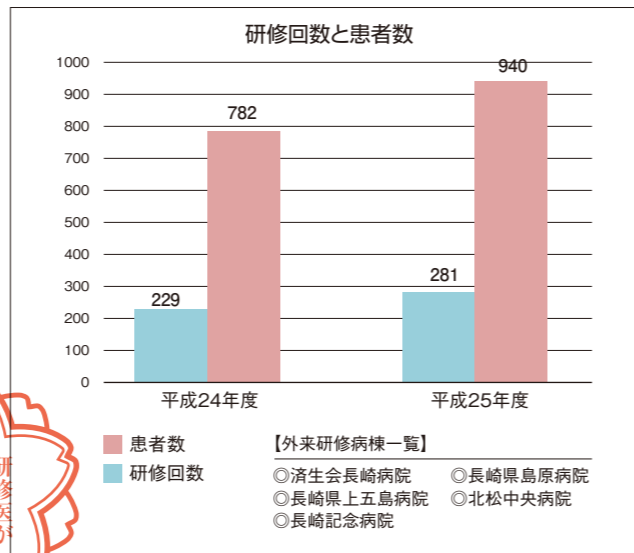
大学病院専門医と研修医を地域医療機関に派遣し、診療応援を兼ねた医療人育成のための外来業務を行い将来の専門医を育成する。

この事業の目的は

- ① 研修医・若手医師が、地域で働く医療人となるために、大学指導医のサポートのもと、大学病院では経験できない専門外来及びプライマリケア外来における技術、知識、態度を学ぶ。
- ② 大学指導医は教育者としてのキャリアアップのために、地域において医学教育を行う経験を積む。



診察後の指導医のチェック プライマリケア外来風景



- ① 長崎大学病院研修医全員が地域病院で5～10回の外来研修に臨み、専門外来及びプライマリケア外来における技術、知識、態度を学んだ。
- ② 医師を派遣することにより地域医療を支援した。各地域病院は今後も継続を希望している。
- ③ 指導医は、地域医療における医学教育を学び、教育者としてのスキルアップを図った。
- ④ 17名の研修医が離島・へき地で1ヵ月以上研修した。



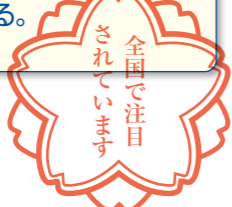
2 医学生等の地域実習促進

第2次 第3次

医療系学部生に質の高い地域医療教育の機会を提供するために、長崎県離島を中心に地域包括医療の教育フィールドを整備し、学年に応じて段階的に学ぶことのできる教育環境を整備した。この教育フィールドを活用して、地域医療の一貫教育と医・歯・薬学部の共修によるチーム医療教育を推進し、地域のニーズに応え社会発展に貢献しうる将来の地域医療人を育成する。



医学科1・2・3年次を対象とした地域医療ゼミを行った。また医学科5年次全員に離島医療実習と地域中核病院実習をそれぞれ1週間ずつ行った。医学科6年次の希望者に高次臨床実習を1ヵ月間行った。地域医療の現場で実習・ゼミを行うことにより、学生の地域医療への理解を深めることができた。また、長崎大学歯学部生・薬学部生とともに、主に保健と福祉分野において医学科5年次と共修し、チーム医療教育を推進した。学生時代より、よりよい地域教育を行い、全国的に注目をあびている。



3 後期研修医への学習支援

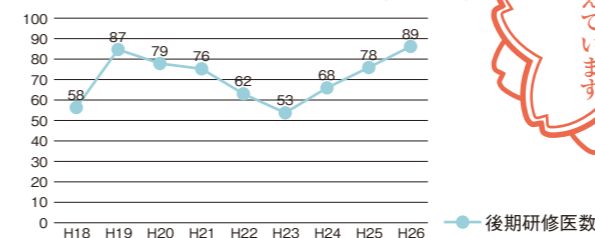
第2次 第3次

後期研修は、診療科や病院により定義が明確ではないが、およそ3年間(卒後3～5年)を研修期間として、主に専門医資格等獲得を目指している。

資格を取得するには、学会や講習会などへの参加が必要である。しかし、忙しさや学会等が遠方であるがために、専門医取得への意欲が薄れることがみられるなか、学習支援を行うことによって専門医の試験を促進することである。卒後3年目・4年目の医師を対象に、H24年度は85名、H25年度は102名への学習支援を行った。

学習支援は主に学習ツール(パソコン・学習ソフト)購入に使用された。また専門書籍購入や専門医取得のための関連学会参加への旅費等に使用し、専門医取得へと学習を行った。支援者は積極的に受験し合格している。

長崎県の後期研修医(卒後3年目)推移 (H26.4.4現在)



4 若手指導医への教育奨励

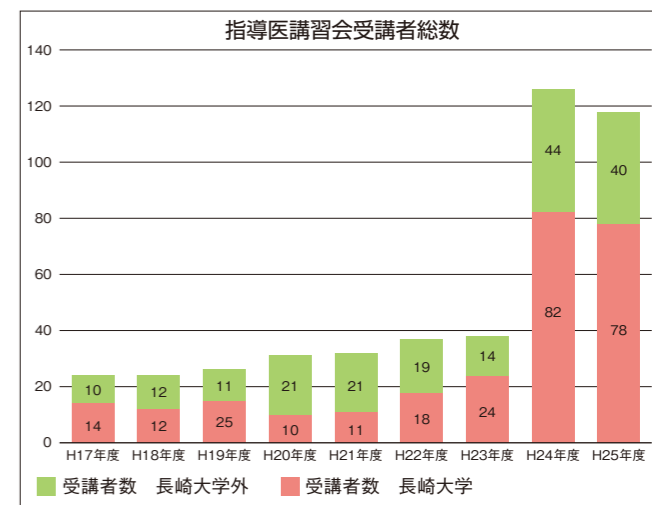
第2次 第3次

大学病院における若手医師が臨床を行う医師としてだけでなく、指導者として、学生や研修医を指導することは非常に重要である。指導医になるためには、厚生労働省の指針にそった指導医講習会を受講しなければならない。H23年度までは年1回開催、H24年度からは年3回に開催を増した。H24・H25年の講習会を受講した医師に対し、教育奨励金を付与した。

講習会では様々なワークショップを行い、「研修医へのフィードバックの仕方」、「初期研修におけるふりかえり学習法」など、臨床研修指導医としてのトレーニングを行った。講習会を受講した医師には、学生・研修医教育に必要な図書・教育ツール、指導に役立つ図書・学習教材等の購入費用を支援した。iPadや小型パソコンを端末として利用し、視覚的に印象づけられる臨床教育を行っている。

長崎大学病院 新たな専門医資格修得状況

専門医名称	H23	H24	H25
1 放射線科専門医			
2 眼科専門医	1	5	
3 形成外科専門医	4	1	
4 外科専門医	12	12	7
5 産婦人科専門医	4	3	1
6 小児科専門医	2	2	2
7 耳鼻咽喉科専門医	1		2
8 整形外科専門医	3	4	2
9 精神科専門医	1	2	
10 認定内科医	20	22	18
総合内科専門医	5	1	4
11 脳神経外科専門医	1	2	1
12 泌尿器科専門医			1
13 皮膚科専門医	5	1	1
14 病理専門医			
15 麻酔科認定医	5	3	3
麻酔科専門医	2		4
16 臨床検査専門医		1	1
17 救急科専門医		2	2
18 リハビリテーション科専門医			
19 その他の専門医	37	36	60
計	103	97	109



iPadを用いた指導風景

5 看護師のマグネットホスピタルでの研修

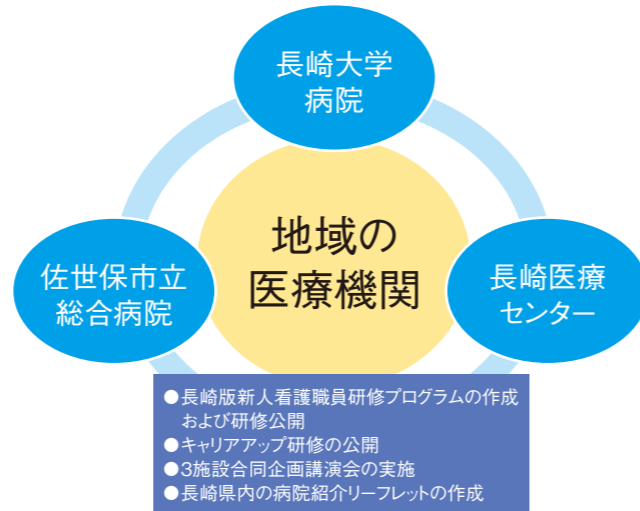
第2次 第3次

長崎県内病院に勤務する看護師等が均一化した高いレベルの看護スキルや知識の習得を目指すため、研修プログラムを構築した。また若手看護師等の県外流出を防ぎ、県内で高い看護教育を受けることができる体制をつくる。3拠点を中心に、地域の病院の看護師を受け入れて研修会を開催。新人看護師を対象とした公開研修では基本的なスキルや知識の習得に励んだ。また専門分野の看護、地域における看護教育の推進など、キャリアアップのための研修会や指導者育成のための研修会・講演会を開催した。研修会・講演会については再生基金で運営し、参加者は無料で受講できるようにした。



新人看護師を対象とした研修会

あじさい塾☆NAGASAKI



「あじさい塾☆NAGASAKI」として取り組みを開始。公開した研修数は、新人看護職員研修プログラム23回、キャリアアップ研修103回で、参加者数総計延1944名であった。また、出張研修を11回、講演会を6回開催し、参加者数総計延1502名だった(H25年度)。各研修会や講演会のアンケートでは「不安でいっぱいだった新人スタートが改善された」「外部病院からの研修受入がありがたい」「勉強会を継続して欲しい」「研修コースを増やしてほしい」等の意見が寄せられ、満足度も高く好評だった。以上の結果からも当事業の継続を希望する声が多く、次年度への期待が強いことが分かる。

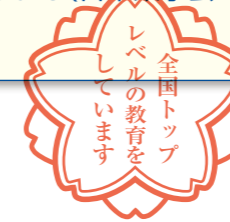
6 薬剤師のフィジカルアセスメント教育

第2次 第3次

チーム医療の推進、安心・安全医療のため、医師・看護師の負担軽減のため、薬剤師がフィジカルアセスメントの知識・手技を修得することは、病院のみならず在宅医療も含め適切な薬物療法を実践するうえで重要である。

第2次医療再生基金で設立された長崎県・薬剤師フィジカルアセスメントコースにより約50名の育成を行ったが、さらに県下により多くの修得者を輩出する必要があり、第3次医療再生基金で継続して当院だけでなく県内の薬剤師の育成を行っている。

H22年からH25年の4年間で、長崎県内の薬剤師・薬学生、計94名が講習会を修了している。また、H22年からH24年に修了した薬剤師へのアンケート調査により、62.5%の薬剤師がフィジカルアセスメントによる副作用発見や処方提案などを行っていることがわかった。薬剤師がフィジカルアセスメント技術習得することで、さらに質の高い薬物療法へ寄与することができると考えられる(日本薬学会第134年会(熊本)で発表)。



長崎県薬剤師フィジカルアセスメント講習会参加者数

	参加人数	病院薬剤師	薬局薬剤師	薬学生
2010年度	22	17	0	5
2011年度	23	16	4	3
2012年度	25	16	4	5
2013年度	24	20	4	0
2014年度(開催中)	24	16	8	0
合計	118	85	20	13

フィジカルアセスメントによる副作用発見と処方提案・変更



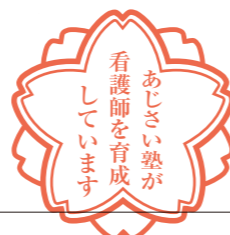
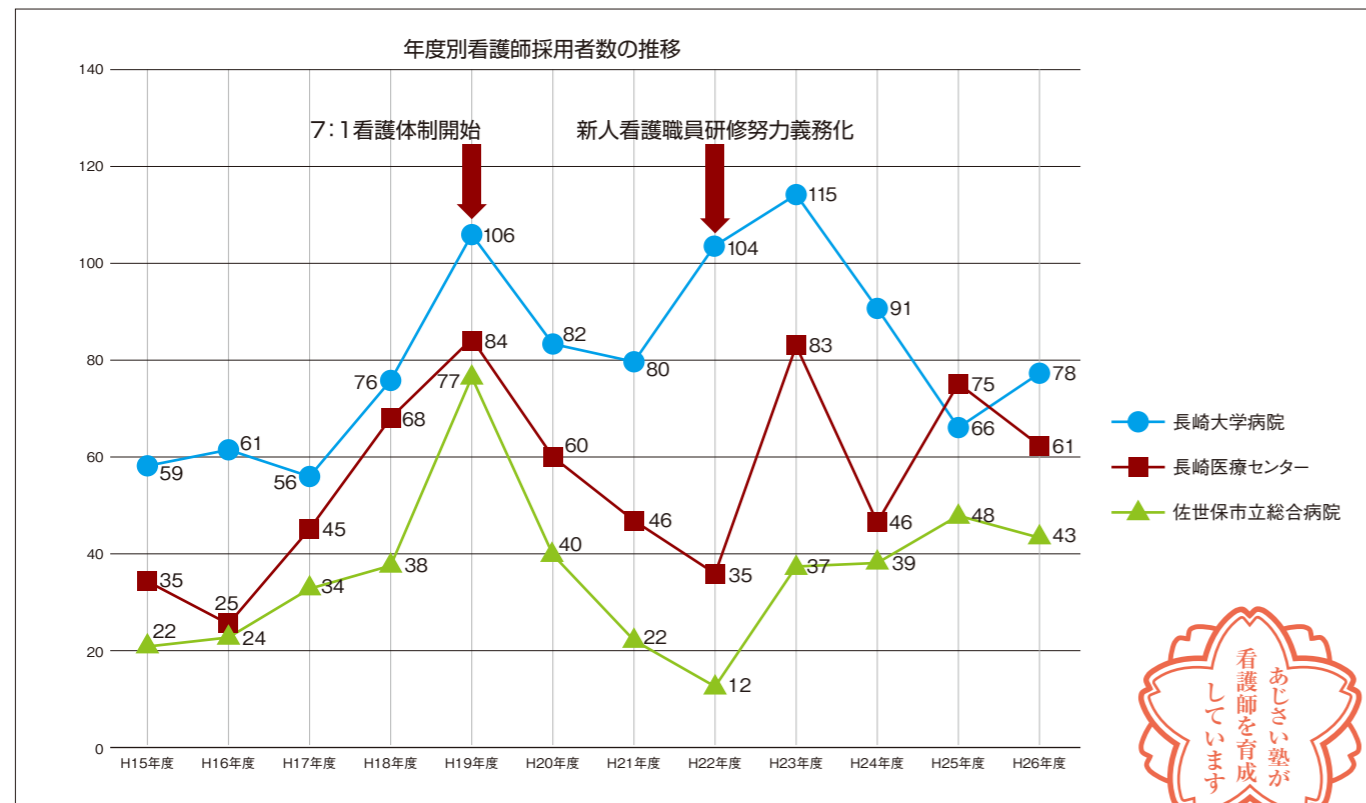
8 救命救急士等の育成

第2次 第3次

3拠点病院において、救急救命士、および救命士を目指す学生を含め、H24年度は延69名、H25年度は延91名の実習を受け入れた。再生基金により購入したシミュレータ等を用いて救命士の気道確保や薬剤投与の実習を行った。この他、硫化水素中毒やグループホーム火災等、長崎県で発生した災害事例等について、定期的に救命センタースタッフと救命士の勉強会を開催した。さらに、先進的救急医療を行っている施設から講師を招聘し、救命士に対する研修会を実施した。



左記の教育、および研修会を通して、救命センタースタッフと救命士との相互理解が深まり、各医療地域での救急搬送はより円滑で適切に行われるようになってきた。長崎大学病院を例にとれば、H24年度に開始したドクターカーの要請件数はH24年度52件(内出動36件)からH25年度110件(同73件)へと倍増し、救命センターへの重症患者数も、H23年度515件、H24年度699件、H25年度841件と著増している(別表参照)。これは、救急救命士が的確に重症例を救命センターへ搬送するようになったことを示唆している。



9 長崎県の医療人が拠点病院で研修時に宿泊できる施設建設

第2次 第3次

長崎県の医療人材育成のため、離島を含むより広い範囲からの実習の受入を可能とし、多くの医療従事者や学生がより良い環境の中で学習できるよう3拠点地に研修用宿舎を整備する。



【長崎大学病院】

現在建設中の新中央診療棟の6階に研修宿泊施設を12部屋、給湯・洗濯室を完備する。先行して行ったI期工事にて、研修宿泊施設がH26年8月末に完了した。今後、受け入れができるように物品等の準備を行っていく。また、研修時の講義等で使用されるスペースの確保として、新中央診療棟の4階に講義室・シミュレーション実習室も完備する。II期工事H28年3月完成予定である。

※H26年8月末時点

[地上6階建]

- ・4階 講義室、シミュレーションセンター
- ・6階 宿泊施設12部屋、給湯・洗濯室



【長崎医療センター】

H27年3月10日完成（予定）。現在、基礎工事を行っている。

※H26年8月末時点

[地下1階、地上3階建]

- ・3階 宿泊施設14部屋、会議室



【佐世保市立総合病院】

H26年12月10日完成(予定)。現在、利用規定等を検討している。

※H26年8月末時点

[地上5階建]

- ・1階 研修、会議室、宿泊設備1部屋(バリアフリー対応)
- ・2～5階 宿泊施設34部屋

10 高度専門医育成

第3次

高度な診療技術者の養成を離島や地域病院と連携して行う。遠隔操作が可能な高度専門医医療具である内視鏡下手術ロボットの代表である「ダヴィンチ」を導入し、患者へ低侵襲な手術を可能にする技術を持つ専門医を育成する。この事業では備え付けの周辺機器を購入し役立てる。



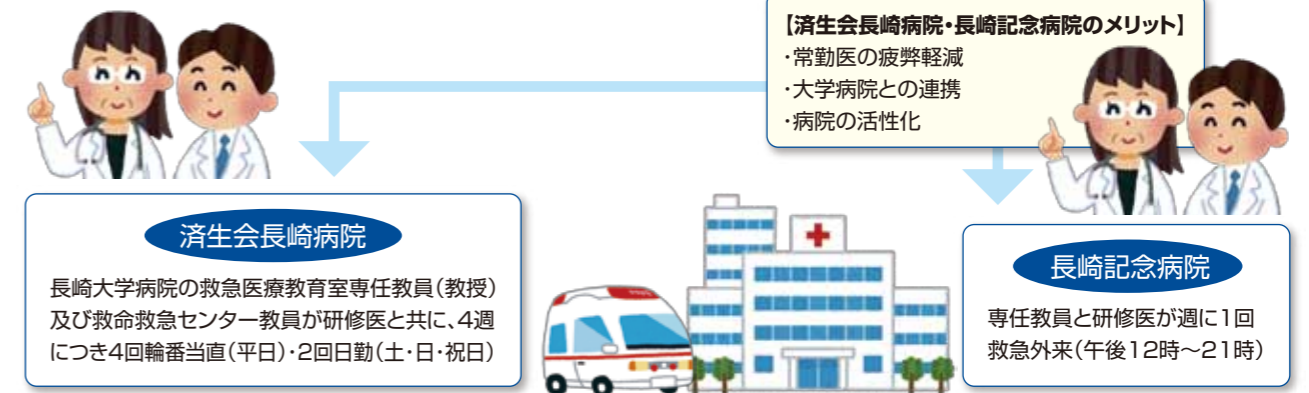
医療チームでのトレーニング風景

H26年7月19日にダヴィンチの搬入が完了した。7月25日に操作説明会を実施。第一例目となる手術に向け現在チームでトレーニング中である。

11 救急医療教育室

第3次

初期及び2次救急の地域病院は医師不足のため崩壊の危機にあり、夜間当直をする人材を求めている。そこで地域の医療関係者の合意のもと、地域市中病院(済生会長崎病院、長崎記念病院)に長崎大学病院の救急医と研修医をペアで輪番日などに派遣し、市中病院の勤務医の疲弊を防ぎ、地域の救急医療に貢献する。また研修医のプライマリケア教育を充実させる。



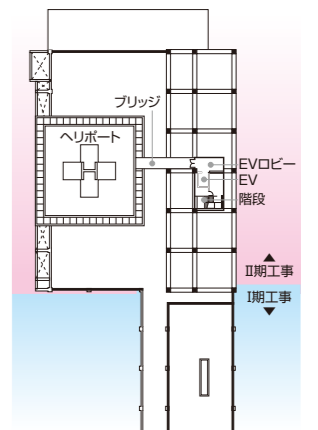
12 ヘリポート建設

第1次

長崎県全体の救急医療を支えるドクターヘリを効率的・効果的に活用するため、給油施設等を長崎大学病院に整備する。現在建設中の新中央診療棟の屋上に設置する。II期工事H28年3月完成予定である。



新中央診療棟完成予想図



新・鳴滝塾 事業

長崎県内の研修医(医科)確保とその後の定着を目的として、H22年より長崎県と県内17の研修病院が一体となって、医学生への病院見学誘致や研修医育成のための事業を展開。



医学生

情報収集
見学エントリー



新・鳴滝塾ホームページ



病院見学・説明会

マッチング
(内定)

国家試験

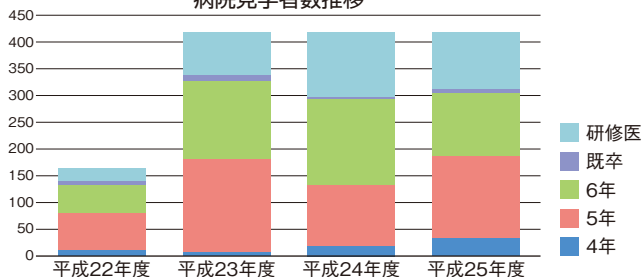
採用



研修医

①病院見学者に対する旅費助成

病院見学者数推移



②合同説明会の実施、県外フェアの出席

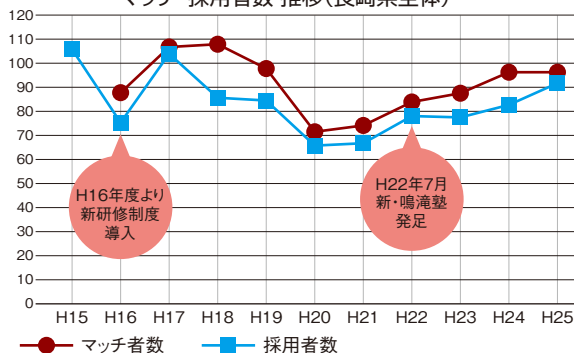
合同説明会	来訪者数	平成23年度採用者数	平成24年度採用者数	平成25年度採用者数	平成26年度採用者数	来訪者のうち採用となった割合
H22年10月	103名	6名	24名	26名	1名	55.3%
H23年 6月	148名		39名	35名	6名	54.1%
H24年 3月	53名		1名	24名	7名	60.4%
H25年3/6/12月	130名				48名	36.9%



県外フェア	来訪者数	平成24年度採用者数	平成25年度採用者数	平成26年度採用者数	来訪者のうち採用となった割合
H23年①福岡②大阪③東京	59名	2名	7名	1名	17.2%
H24年①福岡②大阪③東京④福岡	179名		8名	18名	19.3%
H23年①福岡②東京③大阪④東京	192名			7名	18.9%



マッチ・採用者数 推移(長崎県全体)



③研修医教育(合同オリエンテーション)



④指導体制の強化(指導医育成のための講習会)

指導医 推移

